

日本鉄鋼協会記事

評議員会・理事会

第1回評議員会・第2回理事会 開催日：6月28日。

出席者：荒木会長，ほか49名。

1. 名誉会員推挙の件（54年秋の大会）

Dr. Argenis Gamboa

Presidente

Corporación Venezolana de Guayana

Dr. Dario Vallejo Jaramillo

President

Instituto Latinoamericano del Fierro y el Acero

President

Acerías Paz del Río, S. A.

Prof. R. W. K. Honeycombe

Goldsmiths' Professor of Metallurgy

University of Cambridge

上記3名を名誉会員に推挙することを決定

2. 国際会議主催の件

1979年4月22～27日まで第6回真空冶金国際会議がアメリカの San Diego 市において開催され，本会は Co-Sponsor として協力した。会期中に第7回会議（1982年）の日本開催を要請された。開催することを承認した。

企画委員会

第1回委員会 開催日：6月26日。出席者：細木委員長，ほか22名。

1. ISO TC17 事務局現況報告

4月5日に事務局を日本ビル別館10階に開設した。続いて ISO 中央本部，前幹事国である英国をはじめ関係各国へは事務引継などのため2回にわたり出張している。正式には7月以降幹事国としての業務が開始される予定。なおこの事業予算に対し補助金780万円が内定したので，維持会員各社に ISO TC17 分担金の依頼を行っている。

2. 専務理事海外出張報告

5月6日から6月25日まで下記の行事に出席した旨報告

- ① Metals Society 春季大会，専務理事会議，トーマス転炉100年祭 於：イギリス
- ② 日ソシンポジウム
- ③ 日チェシンポジウム
- ④ METEC 於：ドイツ
- ⑤ マネージメント会議 於：アメリカ

編集委員会

第5回和文会誌分科会 開催日：7月6日。出席者：田中主査，ほか17名。

1. 19件の論文審査報告がなされ，掲載決定15件，修正依頼3件，その他1件であった。

2. 「鉄と鋼」第65年第12号（10月号）に，寄書1件，第13号（11月号）に論文15件，技術資料1件，掲載決定した。

第5回欧文会誌分科会 開催日：7月10日。出席者：中村幹事，ほか9名。

1. 25件の論文につき審査報告がなされ，掲載可8件，照会后掲載可11件，修正依頼4件，一旦返却2件であった。

2. 「鉄と鋼」以外の国内雑誌より，4件の Technical Report と1件の研究論文を勧誘，1件の Technical Report と1件の Report を依頼することとなった。

第3回講演大会分科会 開催日：6月29日。出席者：郡司主査，ほか15名。

1. 第98回大会について
10月16～18日名古屋大学にて開催される講演大会の準備状況報告
2. 講演概要の英文化について
春秋大会の講演概要を英訳して欧文会誌掲載する件について審議した。
今春の大会分より勧誘し実施することになった。

共同研究会

運営委員会

第1回委員会 開催日：6月28日。出席者：荒木会長，ほか24名。

1. 昭和53年度共同研究会決算報告
2. 昭和53年度共同研究会活動報告
3. 報告事項
 - (1) 圧延に関する国際会議
 - (2) AISI 年次総会出席報告
 - (3) 経営科学会議，日ソシンポジウム，日チェシンポジウム出席報告。

電気炉部会

第13回部会 開催日：6月21日～22日。出席者：池見部会長，ほか60名。

共通テーマとして

- (1) 電気炉の溶解能率の向上（バーナー，UHP など）

- (2) コスト低減について

をとりあげ，座長制による徹底した討論を行った。

特別講演には，現在各委員が最も興味を持っている Ladle Furnace について，大同特殊鋼（株）がその冶金的機能について詳述した。

このほか今後の部会運営をより実のあるものとするべく全委員からアンケートへの回答をいただき，その結果共通テーマをパネルディスカッション方式で徹底的に追究することにした。

圧延理論部会

第 63 回部会 開催日: 6月21日~22日. 出席者: 岡本部会長, ほか 94 名.

今回は三菱重工業(株)広島造船所で開催された. 研究発表は 9 社, 3 大学より計 20 件の発表が行われた. 内容は分類すると次のとおりである.

1. 分塊圧延に関するもの..... 2 件
2. 冷間圧延に関するもの..... 7 件
3. 熱延・厚板材に関するもの..... 6 件
4. 形鋼圧延に関するもの..... 4 件
5. 鋼管圧延に関するもの..... 1 件

又, 工場見学は三菱重工業(株)広島造船所内の, 圧延機などの組立工場及び圧延に関する実験設備を中心に行われた.

鋼板部会

第 29 回コールドストリップ分科会

開催日: 6月14日~15日. 出席者: 鈴木部会長, 今井主査, ほか 146 名.

開催地: 川鉄千葉

1. 操業状況調査
酸洗, 冷間圧延, 調質圧延
53年10月~54年3月の状況をまとめた.
2. 自由議題
冷間圧延, 焼鈍
アンケートをとり, かつ, 技術的事項の自由発表を行い, 事前質問を中心に討論した.

熱経済技術部会

第 64 回部会 開催日: 6月14日~15日. 出席者: 片田部会長, ほか 107 名.

1. 統一議題
(1) 低空気比燃焼の実施状況と問題点及び今後の課題
(2) 焼結工場のヒートバランスと省エネルギー
これら二件のアンケートまとめ発表及び質疑応答が行われた.
2. 研究課題「新日鉄・君津製鉄所における省エネルギー活動について」と題し, 同所での省エネ活動と教育の状況について述べられた.
3. 自由討論「堺 1 高炉熱風炉用 排熱回収装置について」ほか 6 件の, 主としてエネルギー回収に関する発表が各社の事前質問に対する回答の形で行われた.
4. 自由議題「高炉吹込用重油バーナの測温について」ほか 9 件の発表があった.
5. 工場見学は新日鉄・君津製鉄所・第 4 高炉及び熱延工場を中心に行った.

計測部会

第 72 回部会 開催日: 5月31日~6月1日. 出席者: 宮崎部会長, ほか 153 名.

開催地: 神戸製鋼所 (神戸)

一般研究報告 29 件が提出され以下の順に発表, 質疑

応答が行われた.

- | | |
|-------------------------|-------|
| (1) 製鉄関係の計測 | (5 件) |
| (2) 製鋼関係の計測 | (6 件) |
| (3) 圧延関係の計測 | (9 件) |
| (4) エネルギー関係その他の計測 | (0 件) |
| (5) 製品検査のための計測 | (1 件) |
| (6) 計測技術の改善研究, 新技術製品の紹介 | (4 件) |
| (7) 計測器の検査保全上の問題 | (2 件) |
| (8) その他 | (2 件) |

クリープ委員会

第 1 回金材技研クリープデータシート連絡分科会

開催日: 7月2日. 出席者: 田中主査, ほか 7 名.

次の議題をもとに審議が行われた.

1. 昭和 55 年度要望試験鋼種について
(アンケート結果の報告と要望鋼種の選定)
2. 溶接継手試験の進行状況について
3. その他

この議事概要は次のとおりである.

① JIS NCF1(Inconel 600), および② JIS NCF3(Inconel X750) に関するデータの必要性については, クリープ委員会メンバーのうち 21 機関(65%)が要望しており, 試験の種類および試験条件を検討した. ③ JIS などに規格化されている鋼種でクリープデータシートを作成する必要があると思われる材料については, 順位が異なるため金材技研に検討をゆだねることとなった.

また, 溶接継手試験の進行状況については, 第 2 期計画につき第 1 期計画による施工結果との比較が示され, 種々質疑が行われて計画どおり進めることが了承された.

日本圧力容器研究会議

非破壊試験専門委員会

第 2 回委員会

開催日: 7月4日.

PVRC (Pressure Vessel Research Committee USA) から要請を受け, 日本圧力容器研究会議 (JPVRC) で試験を実施することになった.

今委員会では, Schedule of Round Robin Test On JPVRC-NDE についての検討を行った.

1. 基本となる規格, ASME Section XI Appendix I (1974) に基づいて行う.
2. 探傷器, Krant Kramer USIP-11 を米国では再試験に選定しているのでその理由を問合わせる.
3. 振動子, 材質, 方法, チェック法など重要な問題であるので, 米国に問合わせる.
4. 米国より送られる Test Block
寸法, 溶接, 溶接材料, 溶接条件など詳細を問合わせる.
5. UT 試験法

試験法の統一をはかるためかなりの勉強が必要であるので今後 2~3 回勉強会を開くなどのことを決めた.

低温材料専門委員会

第7回委員会 開催日：5月13日。出席者：二上委員長，ほか16名。

今後の具体的な研究の進め方について討議し以下のよう
に決められた。

1) CR材の圧力容器への適用 (Controlled Steel) 現
状でのCR材の一般的材質レベルとCR材の破壊特性
の2項目について，原則として公表されている資料を用
いて概念的なまとめを行う。5月のPVRC Meetingで

はコンセンサスが得られた形で報告を行う。

2) 現状問題となつている具体的項目の解決現状，最
もまとまっている「19%Ni鋼の極厚成分系，PWHTの
冷却速度の規定」に関する項目をCase Studyとして先
行着守し第1ステップとして5月PVRC Meetingに
Proposalと言う形で発表する。

3) 靱性要求に対する考え方

当分周囲の様子をみることにし，具体的活動は見送り
とする。

第69回塑性加工シンポジウム

主 題：ステンレス鋼材の製造

開催日：昭和54年11月21日(水) 10:00~17:00

場 所：愛知県中小企業センター

共 催：日本機械学会，日本鉄鋼協会，日本塑性加工
学会

協 賛：軽金属学会，ほか

- 1) プラネタリーミルによるステンレス鋼ホットスト
リップの製造について 日本冶金 井上 雄一
- 2) ステッケルミルによるステンレス鋼ホットストリ
ップの製造について 日金工 橋浦 弘志
- 3) ステンレス鋼ホットストリップの製造上の諸問題
と材質 新日鉄生研 中山 正
- 4) フェライト系ステンレス鋼板のリジリングと製造過
程の関係 東大工 鈴木敬治郎
- 5) ステンレス鋼コールドストリップの圧延における
潤滑の問題 川鉄西宮 山本 準一
- 6) ステンレスストリップ用コールド圧延機の諸問題
日立製作 芳村 泰嗣
- 7) ステンレス線材の熱間圧延について
大同特殊鋼(株) 牛山 博美
- 8) ステンレス鋼管の製造について
住金鋼管 井上 陸夫

9) ステンレス鋼板のスリッティング

日本工大 村川 正夫

テキスト 会員(共催協賛学会) 3,000円

申込締切 11月5日

申 込 先 〒106 東京都港区六本木 5-2-5
トリカッビル 日本塑性加工学会

日本鋳業史研究会入会案内

鋳業に関して，探査，採鋳，選鋳，製錬，金属加工な
ど鋳業全般の技術のみならず，特に関連をもつ法制，経
済，地理，民俗，地方史，経営，労働，安全・環境保全な
どの諸分野をも含めて幅広く歴史的調査研究の展開と，
それぞれの分野の知見の交流を図るため，このたび日本
鋳業史研究会を設立することとなりました。何卒設立の
趣旨に賛同され，入会されるよう御案内いたします。

会 員 会 費 個人会費年 2,000円

賛 助 会 費 年1口 10,000円

研究会会報 季刊，研究発表，資料目録，鋳業史料等
掲載

研究発表会，談話会，現地見学会等の開催

日 本 鋳 業 史 研 究 会

〒104 東京都中央区銀座 8-5-4 日本鋳業会館

電話 03-572-5091 振替東京 1-92642 番

計 報

日本鉄鋼協会監事青山芳正儀(日新製鋼(株)常任顧問)不慮の事故でご逝去されました。
ここにご冥福をお祈り申し上げます。